

教育委員会だより

「自立」と「共生」～自己肯定感～

令和3年10月20日号 多治見市教育委員会 教育総務課

コロナ禍でも元気に頑張る子ども達



緊急事態宣言が9月30日に解除され、どの学校においても、できることが少しずつ増えた10月でした。

9月から10月にかけて市内の保育園、幼稚園、中学校の教育長訪問がありました。昭和幼稚園、北野保育園では、多治見市が大切にしている「体力向上たじみプラン」を踏まえて活動を工夫して取り組んでいました。『楽

しい』と感じながら、笑顔でカー杯運動する姿を多く目にする事ができとてもうれしく思いました。

多治見中学校、北陵中学校、平和中学校では、いずれの中学校においても集中して授業に参加する姿を目にすることができました。また、廊下ですれ違う際には、多くの中学生が、「こんにちは」と爽やかなあいさつをしてくれました。

これらは、教師との信頼関係や、生徒会活動が充実しているからこそ生み出された姿だと考えます。

その一方で、中学校では、不登校や学校生活になかなか適応できなくて困っている生徒への対応を重要な課題として捉えて、丁寧できめ細かな対応を粘り強く進めていることも確認することができました。

就学等支援委員会

10月18日に、第3回目の就学等支援委員会が行われました。今回の委員会は、来年度の特別支援学級や通級指導教室への入級の判定が主な内容でした。

多治見市では、来年度から、中学校にも発達通級指導教室を設置する計画のもと準備を進めています。これまで発達通級指導は、小学校まで行ってきました。しかし、中学校に進学しても指導の継続が必要だというニーズを踏まえて、インクルーシブ教育をさらに充実させていきたいと考えています。

教育行政評価委員会



10月4日に、今年度1回目の教育行政評価委員会が開催されました。名古屋大学教授の石井委員長を含め4人の委員さんに集まっていただき、本市の教育行政についてご意見を伺いました。内容としては、①新型コロナウイルス感染症の影響について、②令和3年度前期の主な出来事について、③教育基本計画事業の状況についての3つについて

協議しました。委員会では、夏休み明けの、通常の対面授業開始について高く評価していただきました。今後も、コロナの影響は注視していくこと、学校の負担軽減及び教員のやりがいという視点を今後も重視すること、不登校対策を継続すること、高学年以上の児童生徒の主体性・社会性・自己肯定感を育むこと等の課題について確認することができました。後期も意識して、教育施策を進めていきたいと考えています。

第65回多治見市科学作品展



令和3年10月3日（日）に学びの丘エールにおいて「第65回多治見市科学作品展」を行いました。

本来ならば、9月4日と5日に予定しておりましたが、緊急事態宣言発令により実施できませんでした。しかし、自分の興味のあることを長期間に渡って観察、

実験を行った多くの子ども達の頑張りを認める場を設定したいと考えて、金賞作品及び銀賞作品のみではありましたが、作品展を開催しました。当日は、市内小中学校の9名の教員に当日の運営の協力をしていただきました。この日は、約460人のたくさんの親子連れに来ていただきました。ファイルを手に取り、熱心に読む姿をたくさん目にしました。こうした機会を通して、理科好きな児童・生徒が少しでも増えていくことを期待しています。

